

新潟大学教育人間科学部における家政教育

五十嵐 由利子

新潟大学は、新潟市西部の五十嵐キャンパスに本部と7学部、新潟市中心部の旭町キャンパスに医学部と歯学部があり、教育人間科学部のある五十嵐キャンパスは日本海と佐渡島を見渡せる砂丘に立地しています。

1998年に教育学部が改組され教育人間科学部と名称変更となりましたが、教育学部は1949年の新潟大学発足時に設置され、新潟市、長岡市、高田市（現上越市）の3地区にそれぞれ特色を持った分校が置かれました。その背景には、新潟大学の母体となった各学校の影響がありますが、昭和56年に五十嵐キャンパスに学部統合されました。なお、母体となった各学校は、新潟第一師範学校（新潟）、新潟第一師範学校女子部（長岡）、新潟青年師範学校（新発田）、新潟第二師範学校（高田）、新潟高等学校、新潟医科大学、長岡工業専門学校、新潟県立農林専門学校でした。

家政教育は新潟第一師範学校女子部のあった長岡分校において中心的に行われ、小中学校教員養成の課程以外に家政学科（1960年家政科に名称変更）が1967年まで置かれていました。このような状況で教育研究が行われ、学部統合まで栄養士の資格取得も可能でしたので、卒業生には高等学校教員が多く、家政学研究者や料理学校・調理師学校を経営している人も複数いるという特徴を持っています。また、1993年より二級建築士の受験資格（実務3年）が得られるようになり、建築関連の会社に就職する者も増えてきました。

現在の教育人間科学部の構成は図1の通りで、家政関係は学校教育課程・家庭科教育専修と生活環境科学課程・生活科学コースです。家庭科教員は7名で、家庭科教育専修と生活科学コースの学生指導に全員で協力して担当しています。現教員構成は、食物学と被服学が2名、家庭科教育、家庭経営学、住居学が各1名で、そのうち家政学出身者は5名です。

家庭科教育専修では、新しい時代にふさわしい家庭科教育の専門家を養成したいと考え、専門教育を行っています。

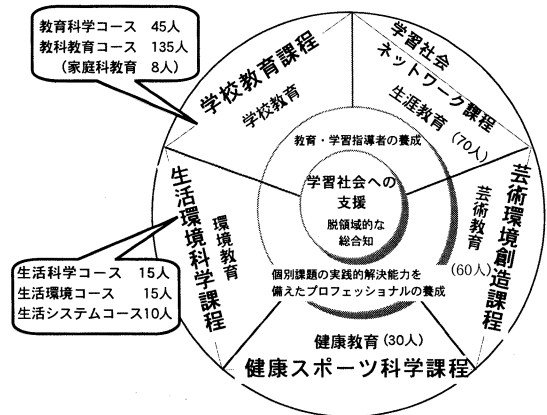


図1. 新潟大学教育人間科学部のねらいと構成

生活科学コースのねらいは、個人、家族の日常的な生活に関わる問題の科学的な分析と解決を目指すため、衣食住の生活環境や生活者を取り巻く社会環境を整え、質の高い生活を創造するための総合的な能力を身につけることです。そのため、食物学、被服学、住居学などの専門科目だけでなく家政学を多面的に捉え、専門性を深めることができるようカリキュラムを構成しました（図2）。また、単位の取得方法によっては高等学校と中学校の教員免許（家庭科）や二級建築士の受験資格が得られます。入学当初から、将来の目標を持つてくる学生も見受けられ、可能な限り支援しようと教員も努力しています。2000年度から、インターシップの制度を取り入れ、3年次学生数名が企業等での体験をしてきました。この体験を通して職業意識を持ち、大学での学習意欲も増すなどの効果が得られ、2001年度以降も行いたいと考えています。

少子化への対応から学部改組が全国で行われ、新潟大学でもかなりのエネルギーと時間を費やして改組を行いました。4年目となり、厳しい就職戦線に対応すべく新たな対策を考えなければならない状況になっています。

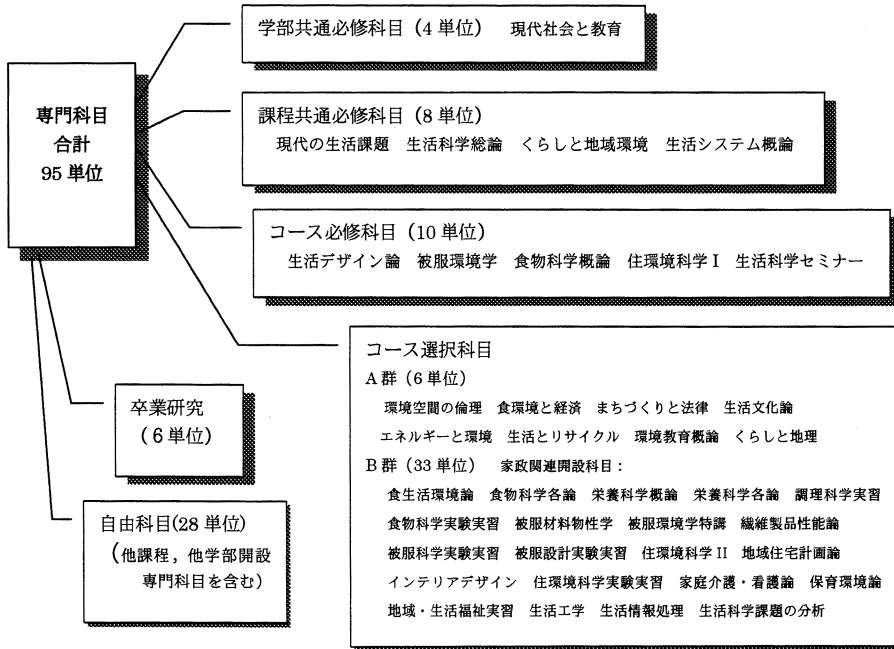


図2. 生活科学コースのカリキュラム